

子ども向けのイベントの企画・運営を通して、 スキルアップとセンターの活性化を図る

団体名 ● いしかわ子ども交流センター活性化プロジェクト / 代表者名 ● 廣瀬一輝(人間科学部こども学科3年)

はじめに

金沢市の犀川沿いにある『いしかわ子ども交流センター』。これまでは、交流センターから募集のあったイベントにボランティアとして参加するという関わり方をしてきた。ボランティアでも学ぶことは多かったが、職員に頼りきりで学生が主体的に動くことは難しかった。

そこで、学生自らがイベントを企画・運営することで、学生の主体性を養い、来館された子どもに楽しんでもらうと同時に、保護者の方々にも「親子間のコミュニケーションの場」を提供することを目標に結成。当団体主催のイベントが交流センターの行事として定着し、当施設のさらなる活性化につながればという思いを持ち続け、今年で2年目を迎えた。

今年度の活動内容

日時	内容
7/19(日)・8/5(水) 8/23(日)・10/2(金)	イベント案打ち合わせ
11/6(金) 9:30~11:30	Matching Hub Kanazawa2020 パネル出展
11/20(金)~1/15(金)	イベント準備(週2回)
11/25(水) 13:00~14:00	センターで打ち合わせ その後はメールにて調整
1/15(金)	最終打ち合わせ
1/17(日) 10:00~15:00	イベント「雪だるまに負けるな！謎解き大作戦！」(中止)
3/5(金)	最終打ち合わせ
3/7(日) 10:00~15:00	イベント「冬なのか春なのか？謎解き大作戦！」(実施)

2021年1月17日(日)のイベント実施に向け、半年間準備をしてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、実施直前に中止となった。しかし、準備したものを活かしたいという自分たちの願いや、イベントを心待ちにしてくれていた子どもたちの思いを鑑み、交流センターと調整を行い、感染状況を踏まえながら、3月7日(日)に内容の一部を変更して、「冬なのか春なのか？謎解き大作戦！」を実施した。「雪だるまを倒せ！～枯れ木に花を咲かせよう～」「なぞときクイズラリー」「雪だるまつくろう♪」の3つのブー

スを企画し、クイズラリーを終えた参加者には景品としてバルーンアートを作って渡した。参加者全員で完成させた桜の木は、色鮮やかな作品となり、春の訪れを感じさせた(写真)。大人と子ども合わせて約250名の方に来館いただき、多くの方に楽しんでいただいた。また、保護者向けにアンケートを配布・実施し、率直なご意見をいただいた。

成果、結果の考察

今年度は新型コロナウイルスの影響を踏まえ、大学内で企画、製作を始めた時期が後期になってからということもあり、昨年度よりも短期間での準備を強いられた。そのため、メンバー各々が責任感を持って自主的に活動に取り組んでいたように感じた。特に、メンバー1人ひとりが空き時間を利用して作業したことは、イベント準備の遂行に大きく貢献できたと考える。また、メンバーと協力して材料の購入や進行状況の連携も取ることが出来た。

今後の課題、展望

昨年度の課題でもあったメンバー募集は、コロナ禍によって当団体の活動の魅力を直接伝えることが出来ず、苦戦を強いられた。来年度も同じ状況が続くと思われるため、今年度と違うアプローチを取る必要があると考える。

また、コロナ禍による様々な制約が続くことを想定して、対面での作業が出来ない状況下でもオンラインを活用した作業方法を模索する。さらに、今年度のように直前のイベント中止もあり得ることから、予備日等の対策を講じた企画・運営をしていきたい。

